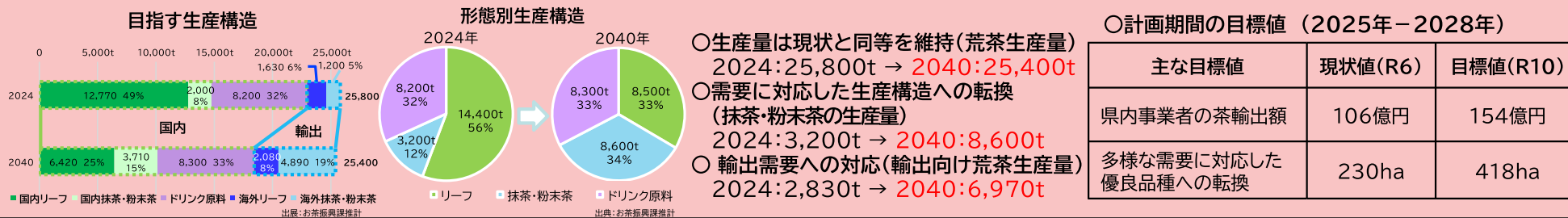


静岡茶の本来価値を発信し、世界で愛され、稼げる茶業へ ~世界から選ばれる静岡茶を目指して

目指す姿



現状・課題

生産

- **担い手の減少**
長期的な価格低迷等による後継者不足、担い手の高齢化が進行。年間を通じた摘採、需要に対応した生産への転換により、経営の安定化が不可欠。
- **茶園面積、生産量の減少**
担い手の減少に伴い、茶園面積と荒茶生産量は年々減少。基盤整備や集積・集約化、スマート技術の導入を進め、省力型茶園管理体制の構築が必要。

輸出

- **海外需要の増加と供給不足**
抹茶を中心に海外需要が拡大し、令和7年の輸出額は721億円と、過去最高だった令和6年の約2倍に急増。海外需要に対応した生産拡大・供給体制の構築が急務。
- **ブランドの未確立、海外市場での認知度不足**
「静岡茶」の世界における認知度が低い。本来価値をわかりやすく伝えるコンセプトの整理、グローバルブランドの構築が必須。

流通・文化

- **荒茶価格の変動**
長期的な価格低迷から、令和7年産は秋冬番茶の価格が前年の5倍となり、年間平均価格も前年比で約8割上昇。需要動向を踏まえた計画的な生産が必要。
- **生活様式の変化、多様化**
リーフ茶の消費量は減少する一方、手軽に飲めるティーバッグやペットボトル緑茶の消費は増加。伝統的な飲用文化を継承しつつ、新たな生活様式に即した需要創出が必要。

今後の趨勢

<需要予測>

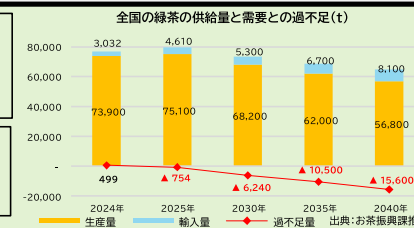
- 人口減少等に伴い、急須で淹れるリーフ茶の需要は減少予測。
- 手軽に飲めるティーバッグ、ドリンク原料は増加予測。
- 抹茶・粉末茶は輸出需要の拡大により増加予測。
- 輸出を含めた緑茶の需要量は拡大することが見込まれる。

<供給量予測>

- 担い手不足や茶園面積の減少により、荒茶生産量は減少予測。
- 輸入量は国内生産量の減少により徐々に増加すると予測。

<需給バランス予測>

緑茶の需要量に対して供給量が大きく不足することが見込まれる。



「稼げる茶業」の確立に向け、中長期的な視点を踏まえ、実践的な施策を展開し、構造改革を図る

施策の方向性

I 茶業の構造改革による生産力の強化

1 需要に対応した生産への転換による「稼げる茶業」の構築

- (1)多様な需要に対応した茶生産体制の強化
- (2)茶園の基盤整備、集積・集約化
- (3)有機栽培への転換の推進
- (4)スマート農業の導入等による省人・省力化
- (5)気候変動等のリスクへの対応の推進

2 オープンイノベーションによる新たな価値の創造

- (1)ChaOIプロジェクトによる新たな価値の創造と需要の創出
- (2)ChaOI-PARC(茶業研究センター)を核とした先端技術開発

II 輸出拡大と供給力の強化

1 輸出需要に対応した生産拡大

- (1)品種転換等によるてん茶や有機茶の生産拡大
- (2)輸出生産拠点の拡大と支援

2 海外市場の開拓の推進

- (1)海外販路開拓の推進
- (2)輸出に取り組む事業者へのサポート体制強化



III 静岡茶ブランドの構築と文化の継承

1 世界に通用する静岡茶ブランドの構築による競争力強化

- (1)世界に向けた戦略的なプロモーションの展開
- (2)高付加価値化ティーツーリズムなど魅力ある消費体験の創出
- (3)顧客接点の拡大に向けたマーケティング強化

2 お茶の文化の振興と理解の増進

- (1)世界農業遺産「静岡の茶草場農法」の維持・継承
- (2)「ふじのくに茶の都ミュージアム」による茶の魅力・歴史・文化の発信
- (3)静岡茶の愛飲の推進
- (4)国登録無形文化財「手揉み製茶技術」の継承